

アーチルニュース ちえなっぶ

発行元：仙台市発達相談支援センター 〒981-3133 住所：仙台市泉区泉中央2丁目24-1
TEL：022-375-0110 FAX：022-375-0142 e-mail：arch1@luck.ocn.ne.jp
http://moc.istu.jp/n_town/hattatsu/index.html

保護者と支援者が「協働する」ために

ちえなっぶ第4号は乳幼児期の特集です。今回は、初回相談から就学まで～保護者と支援者をつなぎ、協働して～がテーマとなります。

乳幼児期にアーチルで初めてお会いする方々の55%が保健福祉センターからの紹介になります。が、病院から紹介される相談も少しずつ増えています。病院からの紹介による相談者の多くは、医療的ケアを必要とする方々です。退院に向け、地域での生活支援体制をつくっていくための相談です。こういった場合、アーチルのスタッフは、病院に出向き、お子さんと保護者の方とお会いしその希望・意図をうかがい、主治医をはじめ看護師やワーカーなどの病院のスタッフともお会いし、地域にどのようなサービスやネットワークを準備すれば在宅での子育てが可能となるのか話し合いをさせていただきます。

協働とは、「共同（協力・連携）して新たに必要なもの（ネットワーク・社会資源）を創り出す」活動と考えます。課題・目標を共有し、共同しながら解決策を見出していく活動です。立場や組織を異にする者同士の「共同 partnership・協働 collaboration」には、互いの立場を理解・尊重した上での、信頼関係を基盤とする、「共同・協働するための手段」が必要となります。

仙台市では障害児・者を地域で支援していくための手段として、ケアマネジメントを実施しています。今年度サービス利用者と提供者が「契約」によってサービスを選択していく支援費制度がスタートしました。この制度の中で多様なニーズを持つ利用者が自分のニーズを表明し、必要なサービスを選択し利用をできるようにしていくためにケアマネジメントは不可欠なものです。ケアマネジメントの目的は、利用者とのエンパワメントとネットワークづくりです。多職種・多機関がチームを組んで、共同・協働していくためにもケアマネジメントが有効な支援方法として実証されてきております。上記で紹介した医療的ケアの必要な方のアセスメントもケアマネジメントの過程で欠かせない機能です。また、新たな社会資源を創り出すこともケアマネジメントの大切な機能です。

アーチルの相談担当スタッフには、どのような生活上の困難を抱えた方にでもしっかり向き合え、保護者や他の機関の方々と協働していけるようになるためにも「ケアマネジメント」をしっかり学び、実践できるようにしていただきたいと思います。

仙台市発達相談支援センター

所長 末永 カツ子



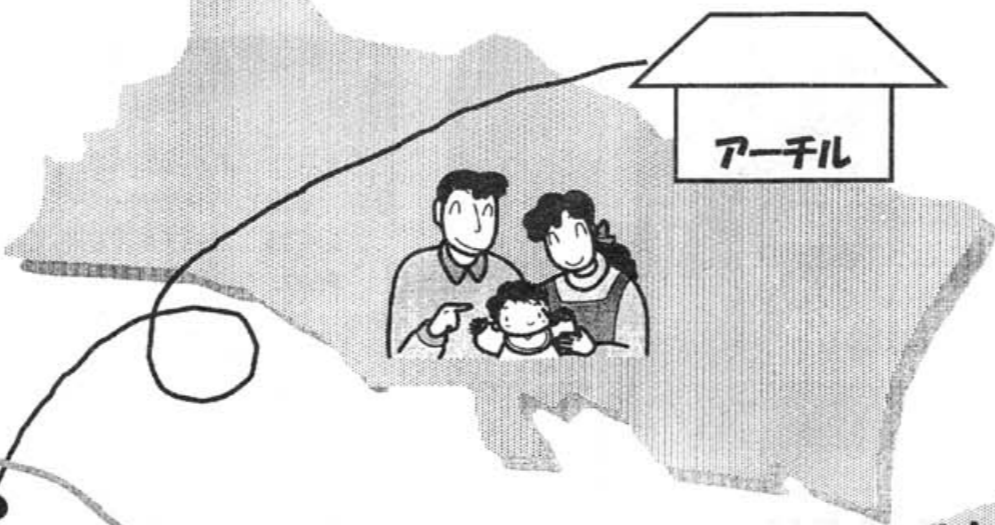
保護者と支援者の声をつなぎ、協働して...

アーチルでの初めての出会いでは 保健福祉センターから

昨年に引き続き1歳～3歳で来所する方が多いのが特徴で、初回相談の半数以上が保健福祉センターから紹介された方々です。また「アーチルまでは遠くて出向けない」「心配はあるけれど迷っている」などのニーズに応えるため各区の保健福祉センターを会場に年間30回程度の巡回相談も行っています。その中では、相談だけでなく「アーチルに来た後、ご家族がどんな思いでいるか」などについて話し合ったり、地区担当保健師さんの家庭訪問をお願いをしたりします。保護者の声と保健福祉センターの保健師さん、心理判定員さんの声をつなぎ相互に役割を分担して継続的に支援しています。

病院から

入院中に退院後の生活をどうするか相談するために、病院の主治医やケースワーカーから連絡を受けてアーチルスタッフと各区のサービスに関わる窓口の担当者が病院に出向き在宅生活に必要な福祉機器などを調整したり、支援者のネットワークなどの準備が整ったところで退院。そんな連携も少しずつ増えています。



保護者とともに
教育相談の評価書を作成

今年度は乳幼児期に相談を受けた相談スタッフがそれまでの保護者との話し合いをもとに教育委員会に求められる総合評価書を作りました。これは本人と保護者のものという考えのもとにアーチルで作成したものを保護者に見ていただき、保護者も納得したものを教育委員会に提出しました。このことはスタッフにとっても自分達の相談の内容を振り返る大事な時間だったと思います。ご家族との協働の仕方を今後も考えたいと思っています。

幼稚園・保育園・通園では

在籍数

幼稚園411名・保育園369名・通園60名
巡回 115回 検討ケース 317名

各施設からの訪問依頼は子どもにとって良い対応と一緒に考えたいというものです。保育の中での対応の仕方だけでなく、家族がどんな思いで今に至ったか、家族をどう支えるかも含め、先生方と話し合います。就学を控えている軽度発達障害児を中心に幼稚園の先生方とケース検討会も実施しましたが、今後先生方の熱意が自主的な学習会につながりそうです。

アーチル初期療育では

保護者と子どもの出会いの場

—先輩の保護者とともに—

アーチルでの初回相談後、初期療育グループへ参加された方は平成14年度は229人、平成15年度303人となります。初期療育グループはアーチルでの初回相談後に開始される小集団療育です。同じ悩みを持つ保護者同士の出会いの場であり、また子ども達が楽しく遊ぶ場でもあります。グループの期間は3ヶ月ですが、終了してからもここでの出会いがきっかけとなり、保護者の自主グループができています。

15年度はプログラムの中に先輩のお母さんと語ってもらう機会をつくり先輩お母さんとの出会いの場づくりにも力を入れました。「“なんとかなるようになるものですよ。”の一言に安心した。“あまり身構えずに楽しく子育てしてみようかな。”と思えるようになった」という感想などからも保護者が元気を出し、子育てに向かっているようになっています。これからもアーチルの療育へ参加している保護者と先輩との支えあいの場をつくることを大切にしていきます。

地域の療育の場では

アーチルの初期療育から 希望する方には障害児通園(デイサービス)へつないでいきます。

現在仙台市内に8か所あり、205人の方が通っています。アーチルとの連携は年に5回位研修という形で様々なスタッフが出向き一緒に支援のあり方を話し合っています。次の進路についても現場で保護者・施設職員・アーチルと一緒に話し合っていきます。家族の子育て支援として預かり保育を行なうなど母親の「レスパイト」を意識した取り組みも実施されるようになってきました。低年齢児の相談が予想以上に増え、60名増の受け入れ枠が拡大されました。

初期療育に来てくれている保護者の声より

～私たちにとってのアーチルは～

・障害だとはっきりした時は大きなショックはありましたがどうなるのだろうと悩んでいた時よりも向かうべき方向が見えた分、気持ちの整理ができました。また、同じ思いを抱えるお母さんたちと出会い励まされました。普通に自立して暮らしてゆける環境ができて上がるよう、地域社会への働きかけと、発達障害の子どもたちの支えとなっていただけることを期待します。

・子どもの病気のことを知らずに毎日のように子どもが起こすかんしゃく、対人トラブル、登園拒否に悩んでいた私は、本当に困り果てて母として自信とよりどころをなくしていました。

「アーチル」に出会えて良かった。こういうところが各区にもっとあれば良いと思います。



かけはし

「アーチル」とは「アーチ (arch : 橋)」と「パル (pal : 仲間)」とをかけたもので、センターが障害者と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。このコーナー「かけはし」は、読者の皆さんとアーチルが双方向で情報交換できるよう、皆さんや職員からのメッセージなどを掲載していきたいと思えます。



初期療育グループで、お話 いただいた先輩お母さんの

声

から

母たちが笑顔で、子どもに積極的に関われる気持ちになってほしい。自分のことを振り返り自信はないが、自分が経験してきたことを、もっとたくさん後輩たちに伝えたいと思うようになった。

障害の入り口が暖かければ家族は人生を信じていることができるし、社会の中で、踏ん張って地面に立つことができるのだと考える。先輩のお母さんとして、話をいっぱい聞いてあげることの喜びを感じる。

「子どもから大人まで生涯ケアを」というアーチルの存在は心強いものです。ここにいる小さいお子さんを持つお母さん達と一緒に、子どもに必要な仕組みを考えていかなくちゃと思いました。

幼児期を経て就学が近づくにつれて思うのは、成長の節目の時、わが子にとって最善の選択を支援してくれるのだろうかということ。アーチルにはそういう場所であって欲しい。

ライフサポートファイルの提案 ～節目の時期をスムーズに～

乳幼児期から学齢期そして成人期へ、それぞれのライフステージで培った支援の内容とその支援に必要な情報を次のステージにスムーズに移行し生涯にわたる支援をより積極的に実現していく。そのための手段としてアーチルが提案しているのが「ライフサポートファイル」です。このファイルはこれまでの生育歴や相談経過、必要な支援計画をとじるものです。ファイルの情報は、本人、保護者、支援者により協働で作成します。この関係者が協働で作成し情報を共有化することにより、このチームでの支援を可能にしていきたいと考えます。このファイルはご本人または保護者が所持し、必要な場面で活用していただきますが、いまままでライフステージが変わることに保護者が苦労していた引継ぎ(移行)をスムーズに行えることも目的としています。これまで、数例モデルとして実施してきましたが、さらに検証を重ねながらより良いシステムとして実現していきたいと考えています。

アーチルボランティアより

6人のボランティアさんが心を込めて作ったおもちゃが完成しました。アーチル事務室のカウンター前に展示してあります。



おもちゃつくり風景です。真剣です..



3月8日には七ヶ浜町のボランティアサークル『三びきのこぶた』と交流をしパワーを戴いてきました。

編集後記

第4号ちえなっぶは乳幼児期を特集しました。アーチルは、乳幼児期では保護者支援に重きを置いています。保護者と支援者の協働を意識し、地域で途切れることのないかけはしを増やしていくために、これからも、家族の声がよく聞こえる場所にいたいとふらくむ桜のつぼみに誓いを立てる春です。(高橋)

